

ヴォヅミエジュ・クヴィエチンスキ (Włodzimierz Kwieciński) 氏は現在、ポーランド空手道連盟議長 (President of TKFP (Traditional Karate Federation of Poland: ポーランド名 PZKT)) および国際伝統空手道連盟副議長



クヴィエチンスキ氏と彼の仲間たち。

Vice-President of ITKF (International Traditional Karate Federation)]である。氏は、昨年の東日本大震災被災地の高校生30名をポーランド・ウヅジ市郊外にある日本武道場 (Japanese Martial and Sports Centre: Dojo-Stara Wies) に招待して彼らを励ましたこと (絆の架け橋プログラム)、および40年に渡る日本の伝統空手道を通じて日本武道、しいては日本文化のポーランド、欧州および世界への普及発展に貢献したことなどの功労により、本年4月29日付けで天皇陛下より「旭日小綬章」が授与された。その伝達式が去る6月14日に在ポーランド日本国大使館において、彼の友人、知人および内外関係者を招待して、山中駐ポーランド全権大使により執り行われたので、その模様を報告する。

クヴィエチンスキ氏と空手の出会いは、今から40年前 (1972年)、当時、私の兄 (霜田千代麿) が演劇修行のためポーランドに留学し、ウヅジ市でポーランド語を学んでいたときに遡る。これは私が2008年に初めてポーランドを訪問した折、氏から伺ったことであるが、ウヅジ市の路面電車の中で日本人の兄を見かけ、氏と彼の友人の2人で話しかけたことがきっかけとなったようである。兄は大学時代に伝統空手を学んで有段者であったことから、話の中で空手に興味を持った2人にそれを教えることになったことが、現在のポーランド伝統空手道連盟 (略称PZKT) の基礎を築くことに繋がっている。その後氏はポーランド (本部:ウヅジ) を武道の拠点として、欧州 (本部:ミラノ) および世界 (本部:ロスアンジェルス) の伝統空手道普及の中心人物となって尽力している。

私がワルシャワに到着したのは伝達式前日 (6月13日) の夜であるが、折しもポーランドとウクライナで開催中の2012年欧州サッカー選手権の最中であり、ホテル宿泊費は彼が「クレージー」というほど高く、彼の息子ヴィテックによる迎いの車で、ワルシャワ空港からそのまま80km南に位置するポーランド第2の都市ウヅジ市のホテルへ向かった。ホテルでは、カナダからやって来たITKF議長でオランダ系カナダ人のリチャード・ヨルジェンセン氏 (愛称リック) と合流し、皆で遅い夕食を囲み再会を喜んだ。ホテルはロフト・アパートと呼

クヴィエチンスキ 伝達式に

ばれ、19世紀から20世紀のポーランドにおける繊維産業の中心となった工場を2010年にリニューアルしたもので、一部を分譲とする重厚な3階建レンガ造りの建物に、最新の設備を備えたものである。

綬章式当日のウヅジは、あいにく朝から大雨であった。彼の奥様ターシャとリックとともに、彼の運転するオフロード用の車で朝9時にウヅジ市を出て、お昼頃にワルシャワ市内に入った。幸いワルシャワに入ると雨も上がり、時折薄日も射してきた。大きな川 (ヴィスワ川) のほとりで、外国からの大勢のサッカー・ファンで賑わうサッカー場の近くを抜けると、まもなく日本大使館である。到着して車を降りると、北海道出身で秘書役の寺田頼子さん (専門調査員) が待っていて、我々を大使館の控え室まで案内して、いろいろとお世話をしてくれた。クヴィエチンスキ氏は礼服に、また奥様はこの日のために日本の着物にそれぞれ着替え、一方、すでに到着していた彼の弟子達は伝達式後に行われる空手の演舞について綿密な打ち合わせを行うなど、辺りには徐々に式典前の緊張感が高まって来た。やがて寺田さんが式典会場の大使公邸へ我々を玄関前まで案内してくれると、それと時を合わせたようにヴィテックが氏の年老いた両親を玄関前までエスコートして、皆が一緒になって公邸に入り、大使ご夫妻の歓迎を受けた。会場は日本大使公邸の大広間で、既に出席者が大勢詰めかけていた。或人は食前酒を片手に、氏ご夫妻、ご両親と和やかに挨拶を交わし、それぞれ式の開始を待った。

出席者は兄の代わりに出席した私を含め、主としてクヴィエチンスキ氏による招待者であるが、来賓としてスポーツ観光大臣のジョアンナ・ムハ氏、7月に着任した駐日ポーランド大使のツィリル・コザチェフスキ氏、両省庁の報道官、内外空手道関係者などの他、多数のメディア関係者である。カナダから出席したITKF議長のリックをはじめ、空手道関係者はポーランド本国からは言うまでもなく、ロシア、ウクライナ、リトアニア、オーストリアなど周辺国からの出席者も多く、総勢90名程度 (大使館) ということである。

式典では冒頭中山大使より綬章理由が説明され、その後、証書授与とともに、クヴィエチンスキ氏の左

氏「旭日小綬章」 出席して

霜田 英麿



ご両親と綬章時の記念撮影。
後列左は山中全権大使ご夫妻。
右はスポーツ観光大臣ムハ氏。

のことで、チェコから参加した（実は滞在中私と合宿所をともにした）何れもラデックという名の二人の若者

胸に「旭日小綬章」が付けられた。続いてムハ大臣による祝辞があり、最後に本人の感謝の言葉があって、無事伝達式典の儀式は終了した。その後皆の賛辞を受けながらの記念撮影がしばらく続き、いよいよアトラクションとして、クヴィエチンスキ氏が説明役となって、PZKTの主要メンバー18名による伝統空手の演舞が、式典場に隣接する中庭で厳粛かつ勇猛に披露され、出席者の喝采を浴びた。後日寺田さんによると、大使公邸での演舞はとてもすばらしく、大使ご夫妻も大変喜んでおられたということである。アトラクションのあとは、公邸で調理されたお寿司と和洋食の立食パーティーで、改めてクヴィエチンスキ氏と彼の家族を讃え、それぞれ親交を深め合った。実は氏はウッジ市からワルシャワへ向かう車の中で、しきりに降りしきる雨を心配していたが、思い通りの演舞が何事もなく鮮やかに執り行えたことへの満足感からか、その後の宴で彼の笑顔が絶やされることはなかった。

式典終了後、連盟関係者とともに、ワルシャワから一路ウッジの日本武道場 (Japanese Martial and Sports Centre: Dojo-Stara Wies) へ向かい、現地時刻午後11時頃に到着した。皆はなんとなくそのまま食堂に集まり、ビールのスタウト瓶を開けて祝杯をあげ、この良き日を締めくくった。

そして翌日を迎えると、昨日とは打って変わって快晴で、大自然に囲まれた道場周辺は、私の育った郷里、北海道の風景とも重なってとても心地よかった。建設中に一度訪れてはいるが、完成した道場、合宿所を見るのは初めてである。道場は国立公園に隣接する約64ヘクタールの広大な丘陵地で、更に拡張の予定があるとのことで、おそらく欧州における日本武道の中心というより、世界的な日本武道の中心的な施設といえるのではないかと思われる。

14日の伝達式のあと、16日には道場の迎賓館とも言える食堂において、PZKTおよびクヴィエチンスキ氏ご夫妻主催による、ごく親しい関係者を招待しての感謝を込めての祝賀会を改めて行った。その夜は、おいしい地元料理とウォッカをすこぶる堪能した。その晩は丁度サッカーのポーランドとチェコ戦があると

は、国旗を振りながら盛んに自国の名を叫び続けると、会場は大いに盛り上がった。多勢の声援にも関わらずポーランドの負けが決まると、仲間は皆暖かくチェコの若者達を讃えていたのが印象的である。

翌17日は、午前中にほとんどの滞在者が次々と道場を去り、私と合宿所を共にしたもう一人、ウルグアイ出身で、モロッコで空手を教えているという、ネルソン・カリオン氏とクヴィエチンスキご夫妻、そして彼の秘書だけとなった。その日も少々雲は出てきたが、とてもさわやかな日で、広大な丘陵地帯に小鳥の声が一段と新鮮に響き渡っている。日曜日ということもあってか、お昼前後にかけて数台のバスを連ねて、見学者が次々と大勢道場へ出入りする度に、彼の奥様が案内役となって丁寧な説明をされていた。

その日の午後、7月の新任を控えていた駐日ポーランド大使、コザチェフスキ氏ご家族が道場を訪問されたのには少々驚いた。ご自身もそうであるが、奥様と2人の小学生の娘さんを連れて日本に着任する前に、畳と布団で寝泊まりする和式の合宿所と道場を訪れて、少しでも日本文化に触れさせたいとの意向のようであった。クヴィエチンスキ氏ご夫妻とカリオン氏とともに、コザチェフスキ氏ご家族を道場、合宿所へ案内した。その後、パヴェル(クヴィエチンスキ氏の片腕)の運転するジープで、ほとんどオフロードの鬱蒼とする林間を抜けて広大な敷地内を周回して戻って来た。子供達が大はしゃぎしていたのは言うまでもない。



道場訪問 (左から) 筆者・ク氏の奥様ターシャ夫人・コザチェフスキ駐日大使奥様・お子様と大使・カリオン氏。

しもだ・ひでまる
(北海道ポーランド文化協会東京事務所)

ポーランド再訪

霜田 千代麿



日本-ポーランド国交 90 周年記念「武道館オープニング」イベントに招待された筆者(左から2人目)。レフ・ワレサ元大統領(右端)。2009年10月10日 ウッチ県「古い村」にて

このたびポーランド『伝統空手道連盟』創立 40 周年記念と世界大会に招待され、ポーランド共和国を訪問した。

丁度、小生が演劇で留学した 1972 年は札幌冬季オリンピックの年であった。90 メートル級ジャンプでポーランドのフォルトゥナ選手が 111 メートルで金メダルを取った。偶然のきっかけから、空いている時間、大学時代に修行した松濤館流の空手を指導する事になった。あれから 40 年、現在、全ポーランドで、成人男女から子供まで 3 万人の男女が空手道に励んでいる。

ウッチで開催された今年の世界大会の場では、ベネズエラから来た石山師範や、先祖は美唄市の出身だというブラジルの渡邊師範にお会いした。2 人とも 50 年近く現地に生活し現在も空手の指導をしている。来賓で沖縄選出の衆議院議員の瑞慶覧長敏氏やスティーブ中田氏(再会)とも会う事が出来た。来年秋、沖縄で首里杯の空手道世界大会を企画中の事であった。

現在、ポーランド、ワルシャワの大型書店をのぞくと、新渡戸稲造の『武士道』を始め、宮本武蔵『五輪書』

柳生宗矩『不動智神妙録』がポーランド語に訳されて出ている事に、以前、訪問した時、驚いた。この国の人々は日本の武道に対し特別な関心を持っている。

北海道ポーランド文化協会に縁の深い人々を訪ねてみた。ポズナンの津田御夫妻宅に一泊した。奥さんモニカ(俳号、陽石)さんの手料理、スープ、ジュレックは最高だった。又、ウッチ大学の吉田教授を研究室に訪ね、大変なつかしい時間を持つ事が出来た。ここに深くご両人へ感謝申し上げたい。

Agnieszka Żuławska-Umeda
 アグネシュカ・ジュワフスカー梅田
 Poetyka szkoły Matsuo Basho
 (lata 1684-1694) wydawnictwo Neriton
 『松尾芭蕉一派の詩学(1684-1694 年)』ネリトン出版

なお、上記の著作で有名なアグネシュカ梅田さん(ワルシャワ大学日本文学科教授)の御主人であられる梅田芳穂氏が今年亡くなりました。

茲に深悼す。

しもだ・ちよまる(副会長)



東日本大震災被災者支援プロジェクトを伝える「ポーランド伝統空手道連盟」のホームページ



ポーランドにおける日本の伝統武道に対する関心は非常に高く、柔道、空手、合気道、相撲、剣道等がとても活発

